

フレコンでの残コン排出方法の問題点

フレコン入り残コンの事例

【事例 1】⇒ 1袋0.7m³程度（約1.5t）、吊り上げ時フレコンが破れて危険作業となる可能性大!!



【事例 2】⇒ 1袋0.2～0.4m³程度、1m³回収にフレコン3～5枚を消費。荷崩れによる事故のリスク大!!



◆残コンをフレコンに入れて排出することの問題点

【事例 1】、【事例 2】のように、残コンをフレコンに入れて固めた状態での排出が多いのですが、問題として…

- ①吊り上げ時、フレコン本体や帯縫い付け部の破断等があり、回収時の安全が保障できません。
また、多くのフレコンはPL法に基づく「賠償保険」を付帯していますが、残コン等の処理で使用されたフレコンでの事故は保険適応外、耐荷重を超えていたら論外です。
- ②フレコンで固化したコンクリートは処理困難物（割増物）となります。（写真⇒）
処理コストの問題だけではなく、リサイクル品の質を低下させる、フレコンを無駄に消費する等、環境負荷を増大させ、コスト面・安全面・品質面・環境面等において**メリットは1つもありません。**
- ③生コンをフレコンに入れる回収方法や生コン業者等に持ち帰らせている現状は法令等にてらしても、**最良の方法とは言えません。**
- ④運搬中・荷降ろし時に、荷崩れ等の事故・災害のリスクが大きい。（事件事例あり）



◆そこで諸問題を解決する、残コン・戻りコンの回収方法の提案です

上記問題点 ①危険 ⇒ 安全に、②処理困難 ⇒ 処理コストダウン、③法的に？ ⇒ 法令遵守等々、全ての問題を解決できる回収方法について ご提案させていただきます。

・プラスチック製なので、軽量で繰り返し使用可能です。(図1)

図1

・パレットを使用することで現場内の移動が容易で、安全に積み重ねて保管できます。①

・回収にガラ袋やフレコンを使用しないので、コストが削減できます。②

・異物混入が無く、再生砕石・砂の良質なリサイクル原料になります(最終処分ゼロ)。②

・処理困難物(割増物) ⇒ コンクリートガラ扱いとなり、処理料金が安くなります。②

・生コン業者等に持ち帰らせないことで時間の短縮や法令遵守の排出方法となります。③

・コンテナ内で硬化させるので「汚泥」扱いにならず、コンガラとしての適切な処理が可能となります



凹形状で積載物 (TP33サイズのコンテナ) の横ズレを防止

◆残コン・戻りコン問題 ⇒ 解決のポイント

■フレコンやガラ袋等に生コンを直接投入すると…

1. 現場で多くの場所をとって邪魔になり、保管状況によっては作業員が危険にさらされることにもなります。
2. フレコン等の容器と固化したコンクリートの剥離が困難であり、リサイクル品の品質を低下させます。
3. 処理料金が「コンクリートガラ」と比較し、かなり割高になります。(1 m³あたり3～5倍程度)
4. 投入時、異物が混入して固化してしまうと「処理困難物」として更に処理料金が割増しになります。
5. フレコンを無駄に消費します。(1 m³の回収で1.5～5枚のフレコンを使用するケースが多い)

■その他にも こんな問題が…

1. 残コン・戻りコンを「産業廃棄物収集運搬業」の許可のない生コン業者等に持ち帰らせることは法的に疑問です??
2. 残コン・戻りコンが非常に多く発生しています ⇒ 適正なリサイクルフローを確立していかなければなりません!
3. 残コン・戻りコンの不適正処理で処罰された事例があります ⇒ 適正な排出方法を確立していかなければなりません

また、先行モルタルや生コン打設後にポンプ車のホッパーや配管内に残る洗い水を含んだ生コンを躯体等に投入することはできませんので、産廃処理費用がかさむ原因になっていないでしょうか?

ご提案をさせていただく目的

| | | |
|--|---|---------|
| <ul style="list-style-type: none"> ・資源の無駄を省くことができる ・資材(コンテナ・パレット)は繰り返し使用できる ・リサイクル品の品質が向上する | ➡ | 環境にやさしい |
| <ul style="list-style-type: none"> ・排出までの間、省スペースで安全に保管できる ・諸問題がクリアできて、コンプライアンス対策になる | ➡ | 現場にやさしい |
| <ul style="list-style-type: none"> ・安全な回収作業、運搬ができる ・処理コストが低減され、排出事業者様に還元できる | ➡ | 処理業者の責務 |

是非ご検討いただけますよう、よろしくお願い申し上げます。